

シンポジウムの開催結果

1. シンポジウムの開催概要
2. 早稲田大学森本教授の基調講演
3. パネルディスカッションでの議論
4. シンポジウムのまとめ

1. シンポジウムの開催概要

1.1 目的・内容

- 自動運転技術が本格的に社会実装される時代を見据え、まちづくりとして目指すべき政策の方向性や取り組むべき施策に関する考え方を示すポイント集を昨年(2025年)の5月に発出。
- 都市空間における自動運転技術の活用に向け、計画や空間の活用、制度上の課題を整理・議論し、都市空間への実装に向けた知見を共有することを目的として、シンポジウムを10月に開催。

**望ましい都市像の実現に向けた
自動運転技術の活用に関するシンポジウム** 別紙

近年、自動運転を巡る技術は急速に進展し続けているところであり、自動運転技術は今後のまちづくりを考えるうえで重要な要素になると考えられます。その際、自動運転技術がまちなかに入ってくることを受動的に捉えるのではなく、まちの課題解決に向けた手段として計画的に取り入れる能動的な発想が必要です。

国土交通省では、平成29年度に「都市交通における自動運転技術の活用方策に関する検討会」を設置し、望ましい自動運転技術の活用あり方について検討、議論を重ねてきたところであり、その成果として「都市空間における自動運転技術の活用に向けたポイント集」をとりまとめました。

シンポジウムでは、木ポイント集を基に、まちづくりと連携して自動運転技術をどのように活用していくか、皆様とともに議論を深める機会として開催します。

自動運転に関心のある自治体関係者や、まちづくりを担うプレーヤーの皆様のご参加をお待ちしております。

2025年10月3日(金) 13:00~16:00 (12:30開場)

開催概要	お申し込み
▼主催 国土交通省 ▼会場 牛込筆筒ホール (東京都新宿区筆筒町15番地) ▼開催形式 対面・オンライン ▼定員 会場：300名 オンライン：800名 ▼参加費 無料 ※フォームでの申し込みができない場合には、問合せ申込担当までご連絡ください	▼対象 自治体職員、民間事業者や大学職員等 ▼申込 下記URLまたはQRコードへアクセスし、必要事項を記入し登録ください。 (※期：9/25(木) 17:00) https://forms.office.com/r/W1e4Nzj2s
プログラム(案) ・開会・あいさつ ・基調講演 ・「都市空間における自動運転技術の活用に向けたポイント集」の紹介 ・先進自治体参加によるパネルディスカッション	申込フォーム 
問合せ等 ▼お問合せ先： (申込について) 日建設計総合研究所 担当：箕、藤原、成田 E-mail: nsr120@nikken.jp (取組について) 国土交通省 都市局 街路交通施設課 担当：高濱、渡邊、小山田、神谷 E-mail: hqt-automatcd_driving_for_city_planning@gxb.mlit.go.jp ▼注意事項： ・@zoom.us) からのメールが受信できる環境でご登録ください。 ・庁内・社内のインターネットセキュリティ環境・迷惑メール設定を事前にご確認ください。	

✓ 開催日時: 2025年10月3日(金) 13:00~16:00

- 13:00 開会挨拶
- 13:05 基調講演 早稲田大学 森本 章倫 教授
講演タイトル「望ましい都市像に向けた自動運転技術の活用」
- 13:30 「都市空間における自動運転技術の活用に向けたポイント集」の紹介
- 13:45 自動運転に関する近年の省庁の動きに関する話題提供
(休憩 10分)
- 14:30 自治体参加によるパネルディスカッション
- 15:40 質疑応答/総括 早稲田大学 森本 章倫 教授
- 閉会

✓ 開催形式: 対面方式(Web併用)

✓ 開催場所: 牛込筆筒ホール(東京都新宿区筆筒町15番地)

✓ 参加者

全国の自治体(まちづくりの課題解決の一環として自動運転に興味を持っている自治体等)、民間事業者(コンサルタント等)、学識者

1. シンポジウムの開催概要

1.2 開催結果

- 280を超える団体から、450人以上が会場及びWEBで参加した。
- パネルディスカッションでは、本検討会座長である森本教授、自動運転の実証を既に実施している岐阜市、堺市、東広島市と街路交通施設課で、参加自治体から事前に募集したトークテーマを基に議論が行われた。



講演の様子



パネルディスカッションの様子

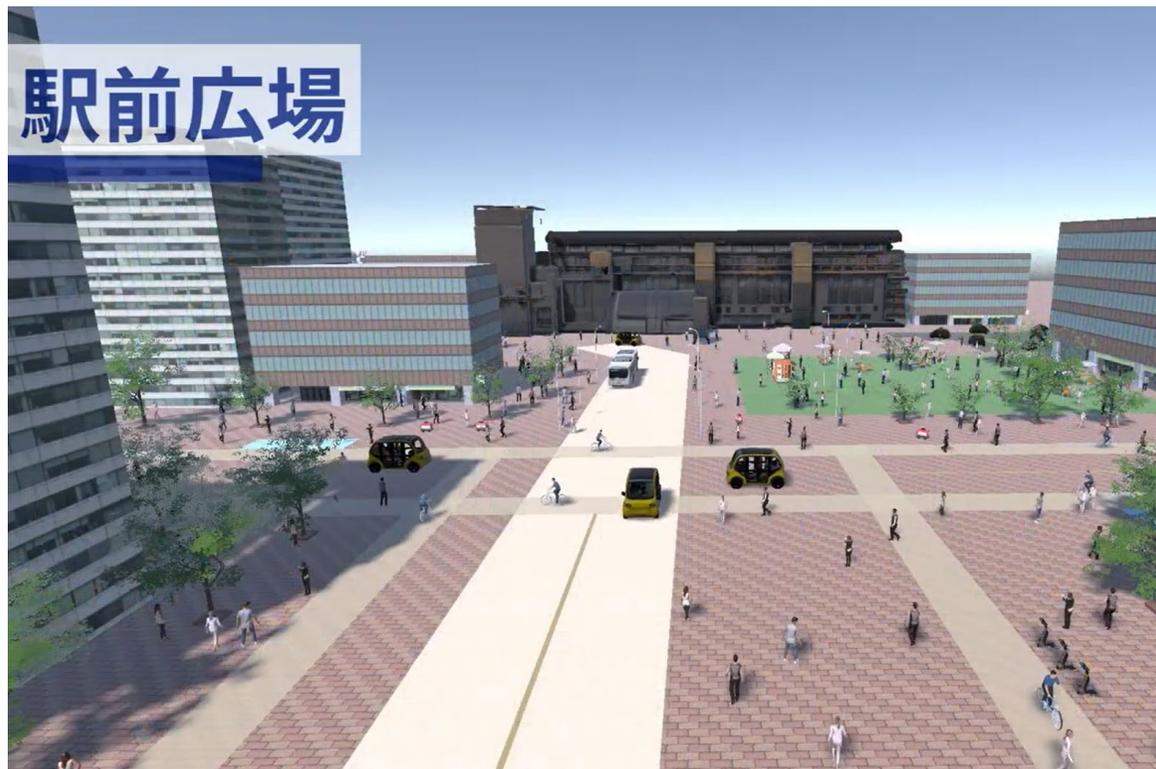
参加者数

分類	参加団体 (WEB)	参加団体 (対面)	純参加 団体数	参加人数 (WEB)	参加人数 (対面)	参加人数 合計
自治体・官公庁	143	23	156	208	35	243
民間企業等	110	30	128	175	39	214
計	253	53	284	383	74	457

※複数人でWEB参加している場合は1人と集計しているため、記載の数値は最小値

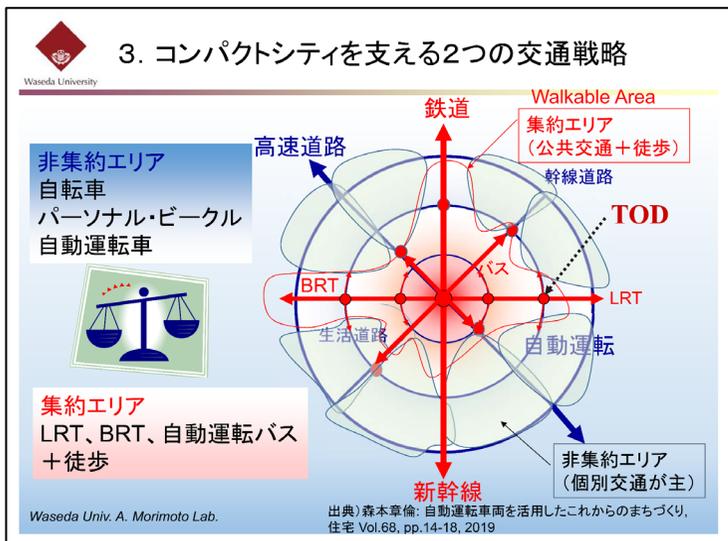
2. 早稲田大学森本教授の基調講演

- 「望ましい都市像に向けた自動運転技術の活用」と題して、港区の階層的な都市交通体系や宇都宮市のLRTの事例等に触れながら、自動運転時代の都市形成について講演いただいた。
- コンパクトシティの実現には、自動運転の導入による公共交通ネットワークの強化に加え、人々が住みたいと思う魅力的な空間の形成が必要と述べられ、自動運転時代の都市空間のイメージを3D動画で紹介された。



自動運転非混在期の駅前広場のCG

出典)自動運転社会の可視化2025v1(早稲田大学森本研究室)
<https://www.youtube.com/watch?v=CutcwCWVvAI>



出典)望ましい都市像に向けた自動運転技術の活用
 (早稲田大学森本章倫)

3. パネルディスカッションでの議論

3.1 トークテーマと登壇自治体

トークテーマ

- ① 自動運転に対応した都市空間の創出に向けた課題
- ② 都市空間に自動運転を実装させる際の課題
- ③ 自動運転を上位・関連計画に位置付ける際の課題

広島県 東広島市

BRTに自動運転・隊列走行の技術を適用することで、基幹的な交通軸の形成と運転士不足への対応を目指すとともに、公共交通の利用者増による事業性の改善や交通渋滞の緩和など、波及効果を上げていくことを目指すために実証実験を実施している。



岐阜県 岐阜市

持続可能な公共交通ネットワークを確保するために、公共交通への自動運転技術の導入や、社会受容性の向上に向けた取り組みとして、全国初となる中心市街地での5年間の継続運行を行っている。



大阪府 堺市

自動運転等により担い手不足に対応し、高頻度運行路線等における運行サービスの維持・向上を図り、持続的な公共交通の実現につなげることや、全ての人が介助なく乗降可能な環境を実現するために実証実験を行っている。



3. パネルディスカッションでの議論

3.2 議論のまとめ

- 自動運転を導入するにあたり、インフラ側で工夫することや、整備に向けて住民の理解を得ることが重要。
- 自動運転を上位計画に記載する際、内容が固まらない段階でも方向性として位置づけることが重要であり、位置づけることで、庁内や民間企業とも同じ方向を向いて取り組むことができる。
- 市域を跨いで横断的に見ることができるのが都道府県であるため、各自治体への後方支援等を行うことが考えられる。

Q1: 自動運転の導入にあたっての都市空間の課題は？

- 専用空間の整備が理想だが、住民の受容性や協調が重要
- 駐停車の完全排除は難しいため、インフラ側の工夫が重要
- 路上駐車対策として、停車帯拡幅等によるスペース確保が重要

Q2: 計画に自動運転の導入を位置付ける際の工夫点は？

- 上位計画への反映を“段階的”に行う
- 内容が固まらない段階でも“方向性”として位置付けること
- 実装見通しが立てば、その時点で柔軟に計画を見直す

Q3: 市全体で自動運転に取り組む際に、市内部で乗り越えてきた部分は？

- まちづくり×交通を一体推進するため体制を構築
- 庁内への積極的な発信により横連携が拡大
- 民間企業との連携が推進
- 庁内理解を深めるため“目的と価値”を丁寧に発信

Q4: 自動運転の施策を進める際の都道府県に期待される役割は？

- 市域を跨いだ“交通サービス”の最適化に向けた調整役
- 技術力向上にむけたノウハウの共有等による後方支援

4. シンポジウムのまとめ

- 自動運転の導入に向けて、関係者間で情報共有しながら、導入シナリオを時系列で検討するとともに、ドライバー不足といった課題の解決を時系列で整理し、着実に推進する。
 - 担当者の入れ替わりによる停滞を避けるため中長期計画に位置付け、交通事業者・大学等を巻き込んだ産官学で連携したネットワークを構築する。
-
- ✓ 自動運転を導入する際に、関係者間で情報交流をしながら進めていくということが重要。
 - ✓ 自動運転の導入までのシナリオについて、時系列で検討するとともに、ドライバー不足等の問題を解決しながら導入に向けて推進する。
 - ✓ 自動運転の導入に向けて取り組む強制力の創出や担当者の入れ替わりによる取り組みの滞りを考慮し、中長期的な計画に自動運転を位置付ける。
 - ✓ 交通事業者や大学等の関係者を巻き込み、産官学で自動運転に取り組むネットワークを構築する。



(森本先生による総括コメントより)